

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		聴覚検査Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時間	後期 木曜1限	教室名	第4校舎402
担 当 教 員		叶 陽子	実務経験とその関連資格	総合病院、クリニックにて言語聴覚療法に従事(成人・小児の聴覚検査等)			
《授業科目における学習内容》							
聴覚機能検査の原理や理論、また検査者としての心構えや注意点を学び、理解を深める。実習を通して検査技術や評価方法を習得する。							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験にて60％以上の得点をもって合格とする。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
教科書:「聴覚検査の実際」 配布資料							
《授業外における学習方法》							
予習・復習として教科書や配布資料を読んでおいてください							
《履修に当たっての留意点》							
授業中や予習復習時などに分からない点があれば、そのままにせず質問し解決してください							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児スクリーニング検査、耳音響放射について原理や検査方法を理解し説明できる		教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	新生児スクリーニング検査、耳音響放射の種類について学ぶ				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	補充現象について学び、その検査方法や評価法を理解し説明できる		教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	ABLB、SISIテストを中心に補充現象について学ぶ				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	演習を通して手技を獲得し、評価できるようになる		教科書 配布資料 AV機器	スムーズに実習がすすめられるよう手順を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	ABLB、SISIテスト実習				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能性難聴、耳鳴について検査手順や評価法を理解し説明できる		教科書 配布資料 検査機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	機能性難聴や耳鳴りの特徴を知り、検査原理や評価法を学ぶ				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	MCL、UCL、方向感について理解し、MCL・UCL検査を実施できる		教科書 配布資料 AV機器	スムーズに実習がすすめられるよう手順を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	耳鳴り検査及びMCL・UCL検査の講義と演習				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習 形式	授業を通じての到達目標	MCL、UCL、方向感について、検査を実施できる	教科書 配布資料 検査機器	スムーズに実習がすすめられるよう手順を復習しておく
		各コマにおける授業予定	耳鳴り検査及びMCL・UCL検査の演習		
第7回	講義 形式	授業を通じての到達目標	臨床場面でSTが関わることのある検査について理解を深め説明できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習
		各コマにおける授業予定	臨床場面で関わる主な検査について学ぶ		
第8回	講義 形式	授業を通じての到達目標	症例をもとに、各種聴覚検査の組み合わせや評価できる	教科書 配布資料 検査機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習
		各コマにおける授業予定	症例をもとに臨床を想定した各種聴覚検査の組み合わせ方や評価法を学ぶ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			